

養殖の実現に向けた課題

1 養殖の実現に向けた課題

■ 漁業においても、農・畜産業と同様に人為的に水産物を飼育管理することで、現代の流通・消費社会が求めている量的にも質的にも常に安定した水産物の生産・供給が可能となるが、本市で魚類等の養殖を実現するためには、主に次ぎに列挙した課題の整理・解消が必要となる。

1 養殖適地・施設など	海面	①	静穏度が高い海域が少ない。
		②	高波・波浪に耐えることができる養殖施設（生け簀）が必要となる。
		③	潮流に耐えることができる養殖施設（生け簀）が必要となる。
		④	区画漁業権の設定が必要となる。
	陸上	⑤	養殖の規模に応じた面積の土地が必要となる。
		⑥	かけ流し式陸上養殖では海面や河川などに面した土地が必要となる。
2 種苗生産・海水馴致・選抜育種	共通	⑦	種苗生産・海水馴致・選抜育種を行うための施設が必要となる。
		⑧	種苗生産・選抜育種を行うための地下水（井水）または河川水が必要となる。
		⑨	優れた耐病性や成長スピード、増肉係数の低い種苗の育種が必要となる。（選抜育種）
3 餌料開発	共通	⑩	養殖水産物や消費者の健康を損なわない安全な餌料が必要となる。
4 魚病対策	共通	⑪	魚病発生時の水産用医薬品の使用方法などの検討が必要となる。（過剰投与による医薬品の残留防止など）
5 良好な漁場環境の維持	海面	⑫	残餌や糞などによる漁場の環境汚染の防止が必要となる。
6 販路の確保・ 他産地との差別化（ブランド化）	共通	⑬	マーケティング・リサーチが必要となる。
		⑭	他産地との差別化（ブランド化）を図ることができるクオリティの高い水産物を養殖するための餌料が必要となる。
		⑮	日本農林規格（JAS規格）の生産情報公表養殖魚の認定取得の検討が必要となる。
		⑯	ASC認証（自然環境や労働などに配慮した養殖に与えられる国際規格）取得の検討が必要となる。
7 採算性の確保	共通	⑰	イニシャルコストの負担を軽減することが必要となる。
		⑱	ランニングコストの負担を軽減することが必要となる。 <input type="checkbox"/> 低廉な餌料の開発 <input type="checkbox"/> AIやIoTなどを活用した効率化・省力化や生産性の向上 <input type="checkbox"/> 閉鎖循環式陸上養殖技術の活用 <input type="checkbox"/> 温泉熱の活用
	陸上		